

< 検査値の見方と基準値 >

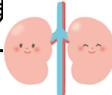


- ・基準値は、健診(ドック学会)と病院では多少異なります。
- ・当院健診における主な項目の基準値は、以下の通りです。



1. 生化学検査

2023年11月17日改訂

	略称	名称	御前崎病院の基準値	検査値の見方
栄養状態	TP	総蛋白	6.5~7.9 g/dl	蛋白のほとんどが肝臓で造られ、栄養状態を意味します。
	ALB	アルブミン	3.9以上 g/dl	蛋白の一部で、肝臓で造られます。 
肝機能検査	AST (GOT)	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ	30以下 IU/l	肝臓に多く含まれています。肝炎・肝硬変・筋炎・心筋梗塞・心不全などで上昇します。
	ALT (GPT)	アラニンアミノトランスフェラーゼ	30以下 IU/l	肝臓に多い酵素です。(肝臓の障害で上昇します。)
	γ-GTP	ガンマーグルタミルトランスフェラーゼ	50以下 IU/l	お酒の量が多い程、高値を示す傾向があります。(肝臓や胆道に障害があると上昇します。) 
	ALP	アルカリフォスファターゼ	38~113 IU/l	骨・肝・胆管・腎尿細管などに障害があると高くなります。
	T-Bil	総ビリルビン	0.2~1.2mg/dl	肝臓、胆道に閉塞の障害がある時に高くなります。
	ChE	コリンエステラーゼ	229~521 IU/l	肝臓で生成され、肝機能の指標の一つとなります。
	LDH	乳酸脱水素酵素	106~220 IU/l	あらゆる臓器に分布し、いずれかの臓器の障害で血液中に流れ出ます。
	脂質検査	TG	トリグリセライド	30~149 mg/dl
T-CHO		総コレステロール	140~219 mg/dl	増えすぎると、動脈硬化等のもとになります 
HDL-CHO		HDLコレステロール	40以上 mg/dl	善玉コレステロールです。血管内壁にへばりついて、動脈硬化をおこすコレステロールを引き抜いて、取り去ります。
LDL-CHO		LDLコレステロール	60~119 mg/dl	悪玉コレステロールです。余剰なコレステロールを血管内に放置し、動脈硬化を引き起こす原因となります。
腎機能検査	BUN	尿素窒素	8~22 mg/dl	おもに腎臓から体外に排泄されるため、腎機能の指標となります。
	CRE	クレアチニン	男 1.0以下 mg/dl 女 0.7以下 mg/dl	腎機能の程度を調べます。腎機能が悪くなると高い値になります 
	UA	尿酸	7.0以下 mg/dl	血中に増えると、組織内で結晶となり、痛風や尿路結石を起こします。
電解質	Na	ナトリウム	139~146 mEq/l	それぞれの電解質はバランスをとりながら、重要な役割を果たしています。このバランスが崩れると浮腫や脱水が起こったりします。熱中症や嘔吐、下痢による脱水、腎機能障害や薬剤などでも変化します。
	K	カリウム	3.7 ~4.8 mEq/l	
	Cl	クロール	101~109 mEq/l	
膵	AMY	アミラーゼ	44~127 IU/l	膵液や唾液に含まれる消化酵素です。器官や組織に異常が起こると血中の濃度が上がります。
炎症	CRP	C反応性蛋白	0.30 mg/dl 以下	体に炎症や感染症が起こると上昇します 
貧血	Fe	鉄	40~199 μg/dl	赤血球生成の材料となり、不足すると貧血の原因になります。
糖尿病	Glu	空腹時血糖	99以下 mg/dl	膵臓のホルモンが不足すると糖を分解できず、血糖値が上がります。
	HbA1c	グリコヘモグロビンA1c	5.5% (NGSP)	糖尿病の血糖コントロールの目安として使われます。過去1~2ヶ月前の平均的な糖の状態を反映します。

2. 血液検査

	略称	名称	御前崎病院の基準値	検査値の見方
血球検査(貧血)	WBC	白血球数	31~84 × 10 ² /μl	細菌感染に防御機能があり、炎症がある時に上昇します。
	RBC	赤血球数	男 400~539 × 10 ⁴ /μl 女 360~489 × 10 ⁴ /μl	貧血の検査です。 
	Hb	ヘモグロビン	男 13.1~16.3 g/dl 女 12.1~14.5 g/dl	
	Ht	ヘマトクリット	男 38.0~48.9 % 女 34.0~43.9 %	
	PLT	血小板数	14.5~32.9 10 ⁴ /μl	血液を固め、出血を止める働きがあります。

3. 尿検査

尿 般 検 査	尿蛋白	(-)	腎臓の病気を見つける手がかりとなりますが、この検査だけでの判断は、難しく他の検査と組み合わせ評価します。
	尿糖	(-)	糖尿で血糖値が高くなると、尿より排泄され、糖尿病の発見の手がかりとなります。
	尿潜血	(-)	腎臓、尿道、膀胱等の炎症や結石、腫瘍で(+)となることがあります。

4. 腫瘍マーカー検査

腫瘍マーカー	CEA	癌胎児性抗原	5.0以下 ng/ml	大腸がん、肺がんで特に有用性が高いと言われています。他の消化器系のがんや肺(腺癌)でも高値になります。
	AFP	α-フェトプロテイン	10.0以下 ng/ml	原発性肝がんで特に有用性が高いです。
	CA19-9		37.0以下 U/ml	膵臓がんで特に有用性が高いと言われています。他の消化器系のがんでも高値になります。
	CA125		35.0以下 U/ml	卵巣がんで特に有用性が高いです。
	PSA		4.0以下 ng/ml	前立腺がんで特に有用性が高いです。
	DUPAN		150以下 U/ml	膵臓がん、胆嚢胆管がんで有用性が高いです。
	シフラ		3.5以下 ng/ml	肺がん(扁平上皮癌)で特に有用性が高いです。